

JCS/TAWC 受賞者の学会参加報告(AHA2021/ESC2021)

ESC2021 に参加して

杏林大学医学部付属病院循環器内科 ふなばし さ や か
舟橋紗耶華

このたびは、名誉ある第10回 Travel Award for Women Cardiologists (JCS/TAWC) に選出いただき、誠にありがとうございます。2021年8月27日から30日までウェブ開催されました、欧州心臓病学会 (ESC) に参加させていただきましたので、ご報告いたします。

COVID-19蔓延のため、2020年より2年連続でのウェブ開催となり、オンサイトでの参加ができず非常に残念でありました。私がはじめて海外学会に参加したのは、2018年ミュンヘン (ドイツ) で開催されたESC (Best poster session) でした。その後もESC2019 (パリ開催)、ESC2020 (ウェブ開催) にも poster 発表で参加し、新たなガイドラインの発表や大規模研究セッション、世界の同年代医師の活躍を目の当たりにして刺激を受け、臨床ならびに研究へのモチベーション向上となっておりました。

ESC2021では、4つのガイドライン改訂が行われました。Heart Failure, Valvular Heart Disease, CVD Prevention, Cardiac Pacing and CRT についてであり、特にHeart FailureではHFrEFに対する標準治療推奨クラスIとしてSGLT2阻害薬であるダパグリフロジンとエンパグリフロジンが新たに加わりました。さらに、大規模研究でもSGLT2阻害薬が注目を浴びており、EMPEROR-Preserved 試験ではHFpEF、DAPA-CKD 試験では慢性腎不全において有効性を示したことが発表されました。さらに、日本からは、STOPDAPT-2 ACS 試験がHot line session で発表され、日本人がこのような注目を浴びるセッションで発表されており、その活躍に感

銘を受けました。自分自身もいつか海外で口述発表をしてみたい、とモチベーションにつながりました。

私自身、家族性高コレステロール血症を含む脂質異常症に関して追究しており、最も注目していたのはPCSK9阻害薬 (エボロクマブ) を使用したHUYGENS 試験でした。Stephen Nicholls 先生のプレゼンテーションをオンタイムで聞くことができました。この試験では、最適化されたスタチン単独療法にエボロクマブを追加投与することで、光干渉断層撮影 (OCT) での線維性被膜の厚さを増加させ、プラークの安定性を改善させることができるかどうかを検証され、約2倍プラーク安定性を改善させることが明らかとなりました。この試験は、心血管イベント減少のメカニズムを明らかにする可能性があり、非常に興味深く、ますますPCSK9阻害薬に期待を抱くようになりました。

今回、私は poster session (Preventive Cardiology) で発表させていただき、演題名は「Characterization of Cholesterol Efflux Capacity in Diabetic and Non-diabetic Patients with Coronary Artery Disease: Comparison between Acute Coronary Syndrome and Stable Coronary Artery Disease」でした。冠動脈疾患 (CAD) 合併糖尿病 (DM) 患者におけるHDL粒子のコレステロール引き抜き能 (CEC=cholesterol efflux capacity) について検討し、安定狭心症 (stable CAD) 合併DM患者に比べて急性冠症候群 (ACS) 合併糖DM症例において、CECは顕著に低下していました (図1)。そのため、DM症例のACS

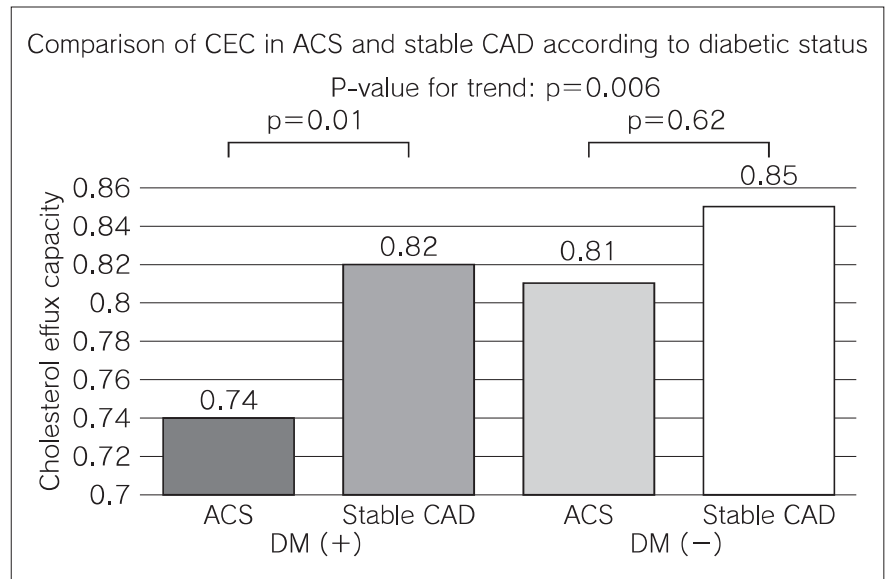


図1 発表時スライド

発症予防において CEC が治療標的としての可能性が示唆されました。ウェブ発表では、自身の発表を録音し、ポスターと一緒にアップロードする方式のため、聴講していただいた参加者の反応や意見を直接伺うことができず、物足りない感覚がありました。一刻も早く COVID-19が落ち着き、現地で ESC が開催されることを心待ちにしています。

最後になりますが、選考くださった審査委員の先生方はじめ、研究の指導をいただいた国立循環器病研究センターの片岡 有先生、そして共著者

の先生方にこの場をお借りして感謝申し上げます。2016年より5年間、国立循環器病研究センターでの国内留学を経て、現在は杏林大学医学部附属病院に戻って循環器内科診療を続けています。臨床だけでなく、研究も行い追究することで、患者さんに貢献していきたいと考えております。

著者の COI (conflicts of interest) 開示：本論文発表内容に関連して特に申告なし

*

*

*